

ハマグリ漁法の技術向上に向けた取組 (若手漁業者の育成)

大隅地域振興局林務水産課水産係

【背景・目的】

平成22年頃に肝属川河口にてハマグリが大量発生したのを受け、高山漁協の若手漁業者が小型底曳網漁業（手繰第3種）を取得してハマグリ漁を開始したものの、漁獲実績は低調な状況にあった。

そこで、普及員が小型底曳網漁業に乗船して操業状況を確認するとともに、他地区の漁業者を講師として招聘し、現在の操業形態や漁具等の確認や今後の操業に当たっての改良点等について協議を行った。

また、ハマグリ資源が現在どのような状況にあるか、生息調査を実施した。

【普及の内容・特徴】

高山漁協若手漁業者のハマグリ漁業（小型底曳網漁業）の技術習得とハマグリ資源の状況確認を目的に、以下の取組を実施した。

1 操業実態調査

まずは現在の操業形態等がどのような状況か確認するため、小型底曳網漁業に乗船して実態調査を行った。調査海域は肝属川河口の水深1～2m付近（中潮の満潮時）で、ロープを10尋（約15m）に伸長して底曳漁具を15分間×3回曳航した。

それぞれバカガイ・バイを若干量漁獲したが、漁獲状況としてはかなり少ない状況だった。

また操業にあたっての問題点として、漁獲時に袋網部へ大量の石や砂泥がたまるため一人で持ち上げるのが困難で、一人での操業が難しい状況であった。

2 講師の招聘

隣接の東串良漁協にて長年ハマグリ漁業を営んできた漁業者を講師に招聘し、漁具に関する意見交換と操業の研修を実施した。

最初に漁具に関する意見交換を行ったところ、講師からは現在使用中の漁具は袋網部の目合いが小さすぎる、天井部の網を張る必要がある等の指摘を受けた。

その後、若手漁業者の漁船に乗り込み、講師の持参した底曳漁具にて操業を行った。当日は遠方で発生していた台風の影響で操業海域にうねりが入ってきたため、予定の海域よりも沖合で操業を行った。その結果、漁獲は全く無い状況であったが、講師の持参した漁具は小型かつ軽量で、一人での操業が容易に行えるものであった。

その他講師から、ハマグリ資源について、24年度の夏に肝属川の水温がかなり上昇した影響で、ほとんどいなくなってしまったのではないかと意見があった。

3 ハマグリ生息調査

ハマグリ漁業の主要な操業エリアが干出する大潮の干潮時において、ハマグリ資源調査を実施した。調査では波打ち際の2カ所にて1㎡あたりの生息調査を実施したが、2カ所ともハマグリを確認できなかった。また、波打ち際にて鋤簾を10分程度ゆっくり歩く速度で曳いて調査を行ったが、ハマグリを確認することはできなかった。

【成果・活用】

生息調査の結果より、ハマグリ資源は現状ではかなり少ないことが推察された。しかし、現状の漁具・漁法における問題点を具体的に確認することができた。

今後漁具・漁法の改良に取り組むことで、ハマグリ資源が再度増加した際には、より効率的な操業ができることが期待される。

1. 操業実態調査



袋網部への石や砂泥の堆積



漁獲状況（バカガイ・バイ・ツメタガイ）

2. 講師の招聘（漁具に関する意見交換）



使用中の底曳漁具



講師の底曳漁具

3. ハマグリ生息調査



生息調査



調査結果（ハマグリは無し）